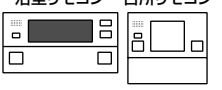
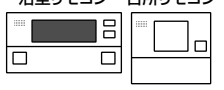
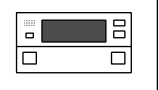
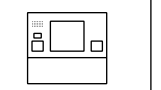
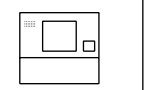
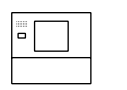


mitsubishi

三菱電機 給湯機用

リモコンセット ●インターホンタイプ 形名 RMC-ESD4 RMC-ESCD4 RMC-D3SE 浴室リモコン 台所リモコン 	●ベーシックタイプ 形名 RMC-3SE 浴室リモコン 台所リモコン 	浴室リモコン 形名 RMC-BD3-W RMC-BD3-N RMC-BD3-A 	台所リモコン 形名 RMC-KD3-W RMC-KD3-N RMC-KD3-A 	サブリモコン 形名 RMC-ESKZ4 RMC-KZ3 	給湯専用リモコン 形名 RMC-N3 
---	---	--	--	---	---

リモコンは、当社電気給湯機専用です。リモコンを使用しないと給湯機のわき上げが行なえません。

形名	形名コード
RMC-ESD4	67L001
RMC-ESKZ4	67L004
RMC-D3SE	68E001
RMC-3SE	68E002
RMC-KZ3	68E003
RMC-N3	68E004
RMC-BD3-W	68E005
RMC-BD3-N	68E006
RMC-BD3-A	68E007
RMC-KD3-W	68E008
RMC-KD3-N	68E009
RMC-KD3-A	68E010
RMC-ESCD4	67L005

工事説明書

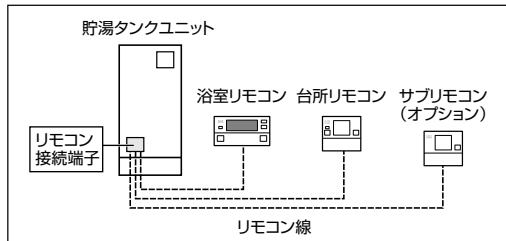
※適用機種は、当社カタログ・据付工事説明書等に記載してあります。

1.工事をされる前に

- リモコン工事は、必ず電源ブレーカーを「切」にしてから行なってください。
- リモコン本体を分解しないでください。
- リモコン線は、当社別売部品(形名:LM-620またはLM-650)を設置条件に合わせて切断してご使用ください。
- リモコンを直接砂の上や鉄くすのある床の上におかないでください。スピーカー一部(左上)に鉄粉等が付着し、音が出なくなります。
- サブリモコンの単一使用はできません。

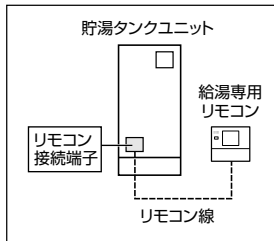
(1)リモコン接続概要図

〈追いだきフルオート、エコオート〉



※本体1台に複数の浴室リモコン及び複数の台所リモコンは、接続できません。また、サブリモコンは1台のみ接続可能です。

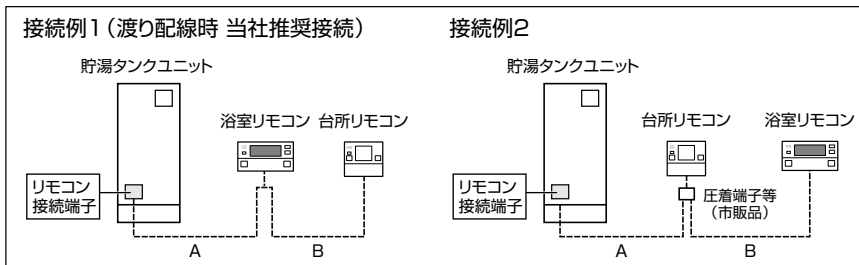
〈給湯専用〉



※サブリモコンは接続できません。

(2) 渡り配線を行う場合の接続概要図

リモコン接続時に渡り配線を行う場合は、下記に従ってください。



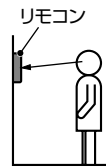
※必ず、貯湯タンクユニットから各リモコンまでの配線長(A+B)を50m以内としてください。
 ※既設のリモコン線を使用する場合、当社別売リモコンケーブル相当品(2芯式、0.3~1.65mm²、67.6Ω/km以下)としてください。ただし、浴室リモコンの接続端子を使用して共カシメを行う場合は、線径0.3mm²としてください。線径が0.3mm²以上の場合は、適合する接続端子(市販品)をご使用ください。
 ※接続例2で配線する場合、台所リモコン端子台への端子の共閉めは行わないでください。圧着端子を使用し、1線にまとめて接続してください。

(3) 取付場所の選定

〈台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコン(オプション)〉

- 必ず屋内の平らな面に取り付けてください。(凹凸があると取付時に変形して誤動作することがあります。)
- 取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ(目の位置より少し下側)を選んでください。
- 台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコンは防水タイプではありません。
- 下記の場所には取り付けられないでください。

- ガステーブルの近くなど高温(45℃以上)になるところ
- 直射日光のあたるところ
- 湯気や水しぶきや油のかかるところ
- 浴室など湿気の多いところ
- 幼児の手が届くところ



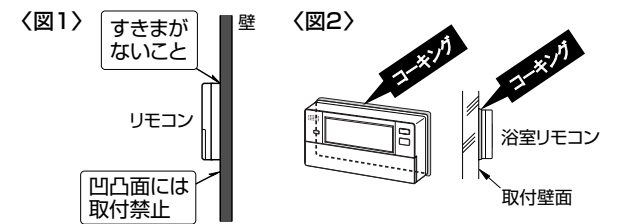
- リモコン線の長さが50m以内になる場所としてください。
- 台所リモコンを無線タイプのドアホン親機に隣接し設置すると、インターホン使用時にノイズ音を発するおそれがあります。台所リモコンは無線タイプのドアホン親機より50cm以上離して設置いただくことをおすすめします。

〈浴室リモコン〉

- 必ず平らな面に取り付けてください。(凹凸があると取付時に変形して誤動作することがあります。)
- 取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ(入浴中の目の位置)を選んでください。
- 浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取付けてください。
- リモコン線の長さが50m以内になる場所としてください。





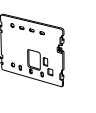

(4) 取付時の注意

- リモコンと壁の間にすきまがないように取り付けてください。〈図1〉
- リモコン線が短絡しないように施工してください。
- 浴室リモコンと浴室壁面のすき間は必ず全周にわたり、シリコン系コーキング剤で十分にシールしてください。〈図2〉
- リモコン工事終了後、貯湯タンクユニットに同梱のパテでリモコンケーブル口をふさいでください。(詳細はパテに同梱の説明書をご覧ください。)
- 台所取付板金をねじで固定する際、強く締め付けるとリモコンと壁に隙間ができることがあります。取付状況に応じてねじの締付量を調整してください。



2.台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコン取付工事

付属品

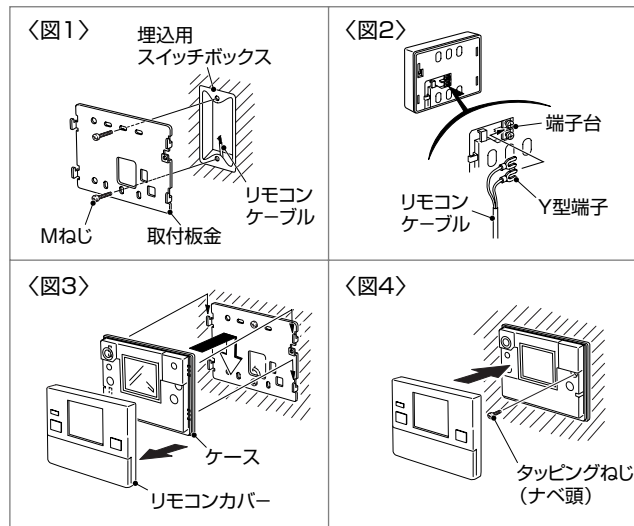
木ねじ 〈4.1×25〉 	タッピングねじ (ナベ頭) 〈4×10M〉 	Mねじ 〈M4×40〉 	オールプラグ 〈MILT-8〉 	取付板金 	Y型端子 
2本	1本	2本	2個	1個	2個

※サブリモコン(RMC-ESKZ4、RMC-KZ3)は、以下の部品が加わります。

中継ケーブル 	ケーブル押え 	タッピングねじ (バインド頭) 〈4×10〉 
2本	1個	1本

リモコン線を壁中に通す場合(埋込配線)

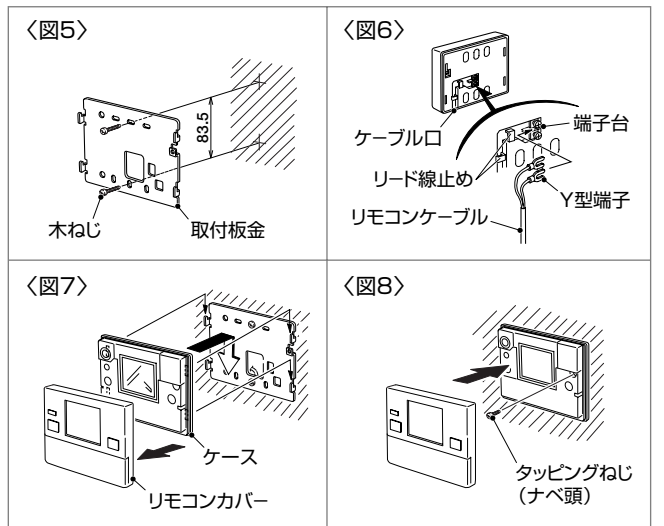
- リモコン取付け位置に埋込用スイッチボックス(1個用)を取り付けておきます。
- リモコン線を電線管に通し、貯湯タンクユニットまで配線しておきます。



- 1 取付板金をMねじ2本で埋込用スイッチボックスに固定する〈図1〉
※「合」が上になるように取り付けてください。
- 2 埋込用スイッチボックスから出ているリモコン線を付属のY型端子に圧着して、端子台に接続する〈図2〉
- 3 保護フィルムを外す
※保護フィルムは捨てないでください。
- 4 マイナスドライバーなどでリモコンカバーをケースから外し、ケースを取付板金に取り付ける〈図3〉
- 5 ケースをタッピングねじ(ナベ頭)で固定する〈図4〉
- 6 リモコンカバーをケースに取り付ける〈図4〉
- 7 手順3で外した保護フィルムを貼る(下記【お願い】参照)

壁面に取り付ける場合(露出配線)

- 壁がコンクリートブロックなどの場合は、オールプラグ用穴(φ6mm、深さ約30mm、2箇所)をあけ、オールプラグを打ち込んでおきます。



- 1 取付板金を木ねじ2本で壁面に固定する〈図5〉
※「合」が上になるように取り付けてください。
- 2 ケースの「ケーブル口」をニッパーなどで切り欠く〈図6〉
- 3 リモコン線を付属のY型端子に圧着して端子台に接続し、リモコン線をリード線止めに止める〈図6〉
- 4 保護フィルムを外す
※保護フィルムは捨てないでください。
- 5 マイナスドライバーなどでリモコンカバーをケースから外し、ケースを取付板金に取り付ける〈図7〉
- 6 ケースをタッピングねじ(ナベ頭)で固定する〈図8〉
- 7 リモコンカバーをケースに取り付け、リモコン線を壁に固定して配線する〈図8〉
- 8 手順4で外した保護フィルムを貼る(下記【お願い】参照)






- 【お願い】●リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
 〈参考〉Y型端子用手动式圧着工具:日本圧着端子製造株式会社製 YHT-2210(JIS 9711規格品)
- 取付板金のエッジ部に注意して配線してください。
 - 取付工事終了後、表示面にキズやほこりがかからないよう、保護フィルムを貼ってください。また、保護フィルムを外してご使用いただくよう、お客さまへご説明ください。(右図)



3.浴室リモコン取付工事

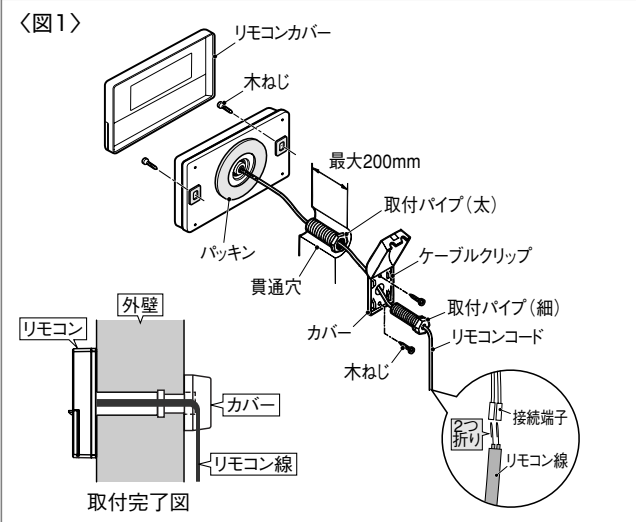
- 浴室リモコンを壁面にしっかり密着して取り付けてください。取付壁面との密着が悪いと、リモコン裏面より蒸気が浸入して、故障の原因になります。タイル壁や溝のある壁の場合は、貫通穴のまわりの目地・溝を、シリコン系コーキング剤でシールしてください。

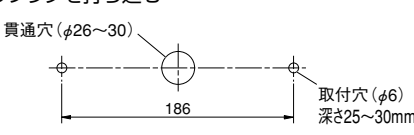
付属品

木ねじ (3.8×32)  4本	オールプラグ  2個	取付パイプ(太)  1個	取付パイプ(細)  1個	カバー  1個
--	---	---	---	---

コンクリート、タイルなどの壁に取り付ける場合(壁貫通)

- 壁厚200mmまで取り付け可能です。



- 取付準備**
 - ①壁面の凹凸をなくす(下記【お願い】参照)
 - ②貫通穴(φ26~30mm)をあける
 - ③オールプラグ用穴(φ6mm、深さ約30mm、2カ所)をあけ、オールプラグを打ち込む
 - ④取付パイプ(太)を壁の厚さに合わせてカットしておく
 - ⑤保護フィルムを外す(再使用しますので捨てないでください。)
 - ⑥マイナスドライバー等でリモコンカバーをケースから外す

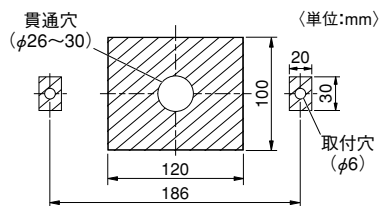
- リモコン、カバーの固定(図1)**
 - ①取付パイプ(太)へリモコンコードを通してリモコンにねじ込む
 - ②パッキンのハクリ紙をはがし、リモコンを仮取付する
 - ③リモコンを木ねじ2本で壁に固定する
 - ④カバー、取付パイプ(細)にリモコンコードを通し、取付パイプ(細)をねじ込み、カバーを木ねじ2本で固定する

- リモコン線の接続(図1)**
 - ①リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する
 - ②接続部がカバーの内側になるように、ケーブルクリップにリモコン線を巻付けてカバーのふたをする

- シリコン系コーキング剤を使って、浴室リモコン全周にコーキングを行う**

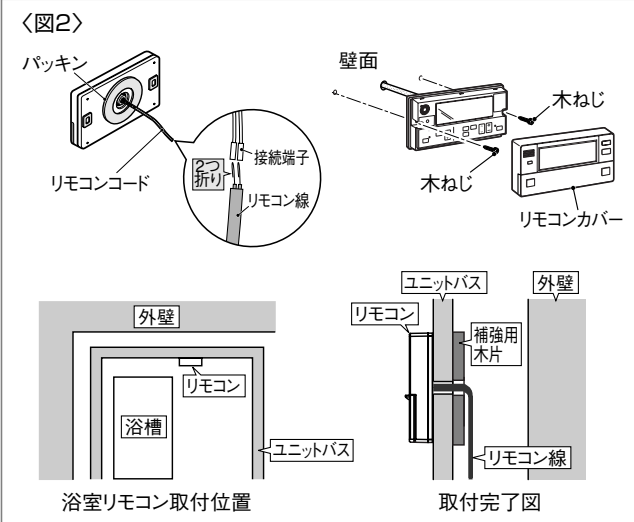
- リモコンカバーを取り付け、手順 1 ⑤で外した保護フィルムを貼る**
※表示面にキズやほこりがつかないように貼ってください。

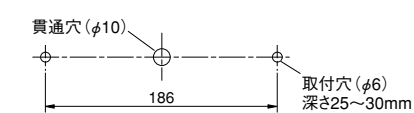
- 【お願い】●コンクリート壁面の溝やタイル目地など、壁面にパッキンシールに適さない凹凸がある場合は斜線部をシリコン系コーキング剤で平らにしてください。
- リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
(参考)接続端子用自動式圧着工具:日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216
 - 保護フィルムを外してご使用いただくよう、お客さまへご説明ください。



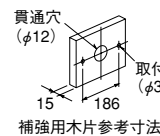
ユニットバスに取り付ける場合(壁内配線)

- 取付パイプ、カバー、オールプラグは使用しません。



- 取付準備**
 - ①壁面の凹凸をなくす(下記【お願い】参照)
 - ②リモコンコード用穴(φ10mm)と、リモコン取付用穴(φ6mm)をあける

※壁パネルに取り付ける場合は、裏側に補強用の木片(現地調達品)を取り付けてください。木片にはリモコンコード用穴(φ12mm)とリモコン取付用穴(φ3mm、2カ所)をあけ、接着剤などで壁裏面に付けます。


 - ③保護フィルムを外す(再使用しますので捨てないでください。)
 - ④マイナスドライバー等でリモコンカバーをケースから外す
 - ⑤室内側からリモコン線を通しておく

- リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する(図2)**

- リモコンの固定(図2)**
 - ①パッキンのハクリ紙をはがし、リモコンを仮取付する
 - ②リモコンを木ねじ2本で壁に固定する

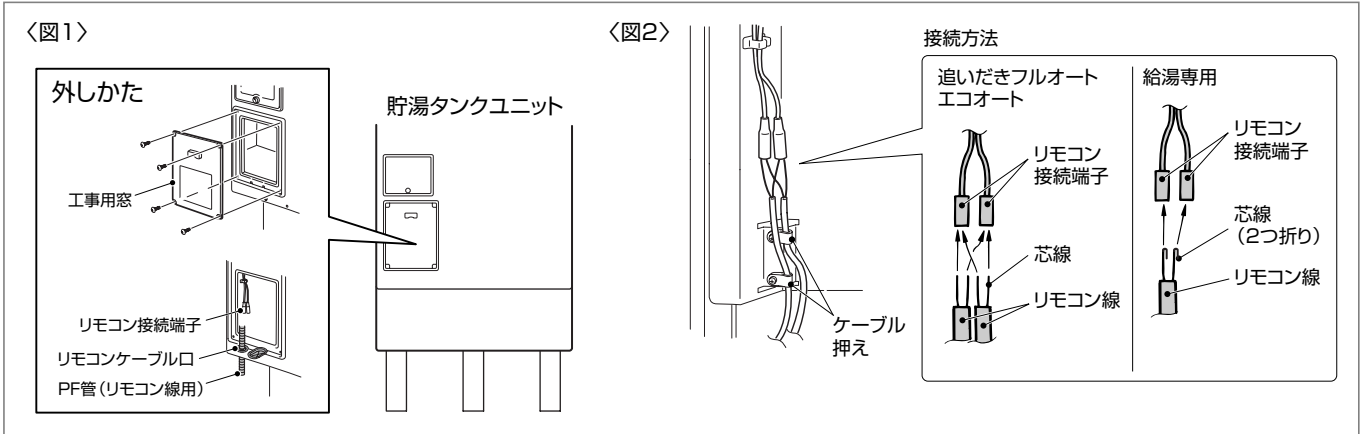
- シリコン系コーキング剤を使って、浴室リモコン全周にコーキングを行う**

- リモコンカバーを取り付け、手順 1 ③で外した保護フィルムを貼る**
※表示面にキズやほこりがつかないように貼ってください。

4.貯湯タンクユニットへの接続工事

- 台所リモコン、浴室リモコン、給湯専用、サブリモコンの端子はどちらも無極性です。

サブリモコンを使用しない場合



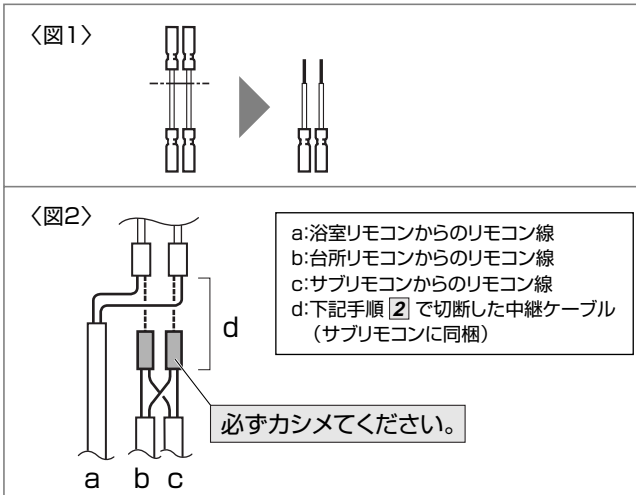
- 電源ブレーカーを「切」にし、工事用窓を外す(図1)
- 各リモコンから貯湯タンクユニットまでのリモコン線を、PF管(φ16)に通す(図1)
- リモコンケーブル口から各リモコン線を通し、リモコン線の芯線をリモコン接続端子に圧着する(図2)
- ケーブル押えでリモコン線を固定する(図2)
- 貯湯タンクユニットに同梱のパテでリモコンケーブル口をふさぐ(詳細はパテに同梱の説明書参照)

【お願い】

- リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
(参考)接続端子用自動式圧着工具:日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216
- リモコン線は、引っ張っても端子に直接張力がかからないようにケーブル押えで確実に固定してください。
- リモコン線どうしの中継は誤動作の原因になりますので行わないでください。
- リモコン線は電源線と離して(約5cm)配線してください。近いとノイズによる誤動作の原因になります。
- 電源線とリモコン線を同一パイプ内で配線しないでください。リモコンが誤動作する場合があります。
- リモコン線を接続端子に接続するときは、200V電源ブレーカーの電源レバーを「切」にしてから接続してください。「入」のまま工事を行うと、リモコンを正しく認識せず、「H01」エラーが表示される場合があります。

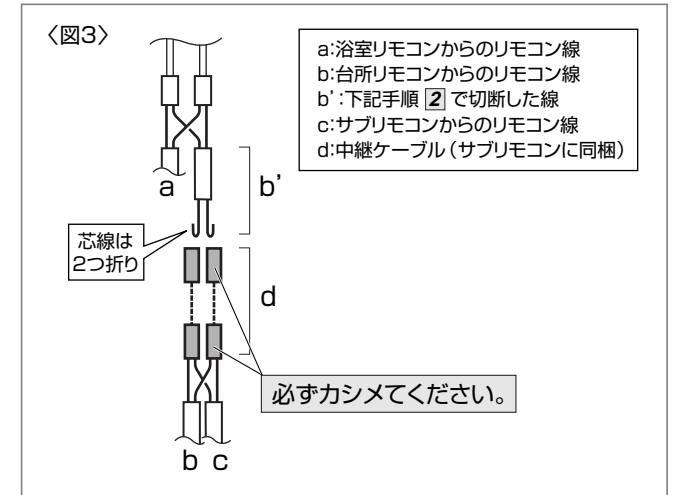
サブリモコンを使用する場合

〈サブリモコンを最初から使用する場合〉



- 電源ブレーカーを「切」にし、工事用窓を外す
- サブリモコンに付属の中継ケーブルを途中で切断する(図1)
- 上図(図2)に従って接続する
- 本体のケーブル押えと、サブリモコンに付属のケーブル押えでリモコン線を固定する

〈サブリモコンを後から使用する場合〉



- 電源ブレーカーを「切」にし、工事用窓を外す
- 接続されている台所リモコンのリモコン線を途中で切断する
- 上図(図3)に従って接続する
- 本体のケーブル押えと、サブリモコンに付属のケーブル押えでリモコン線を固定する